

事務事業評価シート

評価対象年度 平成 21 年度

【事務事業の基本的事項】

事務事業名	児童生徒県南美術展開催費				
担当課係名	平福記念美術館	事業係	作成者	松橋幸太郎	
総合計画での位置づけ	施策の大綱	明日を担う人材を育む教育文化のまち			総合計画のページ 99
	基本計画	芸術文化活動の振興と文化財の保護			
	主要施策	芸術文化団体の振興			
予算費目	一般会計	10款 教育費	5項 社会教育費	6目 美術館費	
事業期間	平成 年度 ~ 平成 年度	新規/継続の区分		継続	
性質区分	<input checked="" type="checkbox"/> 市民サービス <input type="checkbox"/> 公共事業 <input type="checkbox"/> 施設維持管理 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 内部管理				
根拠法令等	仙北市立角館町平福記念美術館条例				
事務区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務				
運営方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 直営(一部民間委託) <input type="checkbox"/> 民間委託(全部) <input type="checkbox"/> 補助				

【事務事業の実施内容】

事業の対象 (誰のため・何を)	仙北市、大仙市、仙北郡、横手市、湯沢市、雄勝郡の小中学校児童生徒を対象に美術作品(絵画、工作、彫刻、工芸)の出品を学校ごとに募る。
事業の目的・意図 (どういう状態にしたいのか)	美術展に出品するという目的意識を持って児童生徒が創作活動することにより、学校における美術教育にプラスアルファの効果を与え、創造性を養う一助となる
事業の内容 (どのような業務、活動を行うのか)	11月中旬まで各校の出品作品をとりまとめ、審査して各賞を決定する。作品は企画展示室及びギャラリーに12月初旬から1月下旬まで展示する。展示期間内に表彰式を行い、その際、上位入賞作品について審査委員長が論評する。

【事務事業の推移】

		項目	単位	19年度実績	20年度実績	21年度実績	
効果	活動指標	開館日数	目標	日	50	45	47
			実績	日	50	45	47
			達成度	%	100.0%	100.0%	100.0%
	成果指標	入館者数	目標	人	2,500	2,250	2,350
			実績	人	2,798	3,006	2,544
			達成度	%	111.9%	133.6%	108.3%
投下コスト	項目		総事業費	19年度決算額(千円)	20年度決算額(千円)	21年度決算額(千円)	
	事業費(人件費を除く)(A)			221	241	196	
	人件費(B)			8,071	7,925	8,057	
	職員数			1.00	1.00	1.00	
	職員平均人件費			8,071	7,925	8,057	
	(A)+(B) 投下コスト			8,292	8,166	8,253	
	財源内訳	国庫支出金			0	0	0
		県支出金			0	0	0
		地方債			0	0	0
		その他			0	0	0
一般財源			8,292	8,166	8,253		
単位コスト	活動指標1単位当たりコスト(円)			165,840	181,467	175,596	
	市民1人当たりのコスト(円)			264	263	270	

【事務事業の今までの成果】

平成21年度で32回目となったこの美術展は、県内でも歴史ある児童生徒美術展の一つとして毎年マスコミに取り上げられている。出品作には冒険的な技法を駆使したユニークな作品も多く、指導する側の先生たちからも注目されている。

【事務事業を取巻く環境】

国・県・他自治体の動向	美術館への入場者数は特別に話題をよぶ企画展を除けば、全国的に減少傾向と言われている。児童生徒の美術展にいたっては、出品者とその家族、学校関係者が入場者のほとんどと思われる。
事業に対する市民の意見 (事業に対する期待、要望、苦情等)	「出品点数の枠をもっと増やしてほしい」との要望が学校関係者から寄せられたことがあったが、「展示スペースの関係で難しい」と回答している。

【一次評価】

判定	事業の方向性	判定に至った理由
B 2	A 現状のまま継続（実施）	教育的効果はある、と認識はしているが、費用面でもう少し抑えることができないか検討していきたい。
	B 1 見直しの上で継続（拡大）	
	B 2 見直しの上で継続（手段改善等）	
	B 3 見直しの上で継続（縮小）	
	C 1 大幅な見直しの上で継続（拡大）	
	C 2 大幅な見直しの上で継続（手段改善等）	
	C 3 大幅な見直しの上で継続（縮小）	
	D 休止・廃止（統合を含む）を検討する事業	
	E 終了（完成及び目的を達成し終了した事業）	

※一次評価の判定がB～Dのときは、下記に必ず記入すること。

【具体的な今後の取組内容（改善の方向性、対象、意図、手段等について記載すること。）

・作品とりまとめ校を4校から3校に減らす（横手平鹿2、湯沢雄勝2 → 横手平鹿1、湯沢雄勝2）

【二次評価】

判定	判定に至った理由
B 2	児童・生徒の美術教育の一助となっている面もあり、関係者以外の集客を図るなどの改善を図りながら継続すべきと考えます。

